

たに違いないであろう。父三郎右衛門（桃秋）、伯父月化などが、深く俳諧に親しんだ人であることも、このこととかかわっているかも知れない。

ところで淡窓が、幼時より「遊戯セシ地」としてあげているのが、まず大原山人幡宮と城内觀音閣（慈眼山永興寺）、そして羽野妙見（羽野天神）であった。さらに東は会處宮人幡、本宮人幡、そして隈川の南では越原觀音、鬼城觀音、普門寺、釜淵、穴平、護願寺。さらに北では、吹上觀音、岳林寺等々であつた。こうしてみると、これらすべてが、後の淡窓・咸宜園の放學・遊山の主たる目的地となつていることが分かる。要するに淡窓は、自らがこよなく愛した日田の自然と名所・旧跡に門下生たちを連れ出し、あるいは遊ばせたのである。

咸宜園教育研究センターでは別府大学の協力のもと、これら咸宜園の師弟の放學・遊山の場となつたところについて、徹底した現地調査を行い、その正確な地図情報と現況の記録を行つた。それは、咸宜園の教育が展開した時間と空間、とりわけ塾生の、いわばキャンパスライフの場となつた空間を歴史的・地理的に復元する作業でもあつた。

以下、淡窓・咸宜園の放學・遊山の目的地となつたところについて、咸宜園・廣瀬家のある豆田と堀田村の地を中心に、ここから東西南北の四方に向かうという形で見てゆきたい。

一 北部・花月川以北

まずは豆田の北を東西に流れる花月川以北の地区である。この地域には、日田盆地の北をるように吹上・友田の台地のほか山田原、小迫原、天神原（宮の原）等の台地が展開する。そしてここには、豆田の町と橋ひとつ隔てたところに永山城、そして永山布政所がある。この永山城・布政所も放學・遊山とのかかわりで重要な場所であるが、これは後述するとして、以下その周辺に足を延ばしたい。

羽野天満宮（図1・1）

まず注目されるのが羽野天満宮とその背後にひろがる山田原の台地である。羽野天満宮は淡窓の自伝や「日記」では「羽野金毘羅ノ祠」「羽野妙見」「羽野普相寺」などとして現れる。

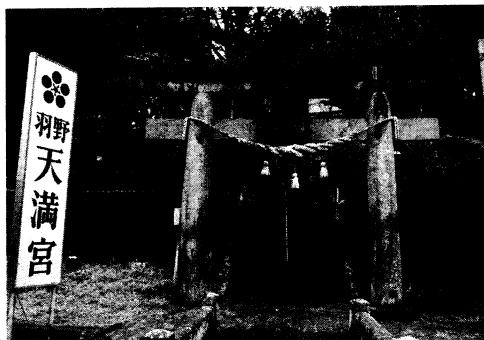
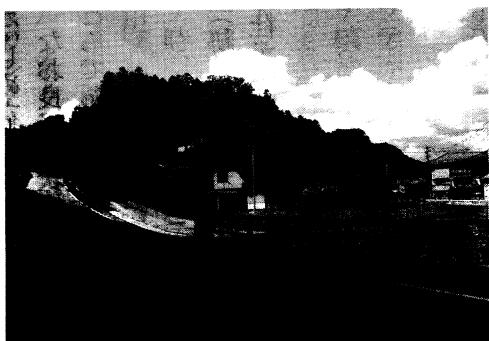
羽野天満宮は日田市天神町、現在の国道二二二号沿い、大分自動車道の高架下をくぐつたところで、左手にひろがる通称山田原の東斜面にある。

羽野天満宮に伝わる「羽野天満宮略記」

等によれば、同天満宮は天暦六年（九五二）、菅原道真の甥菅原貞光が筑紫下向の折、道真公の靈示をうけて公より伝わった法華經と地藏經とを御神体にして創建したと伝えられる。周知のように日田の地には数多く天満宮が祀られているが、その中でも羽野天満宮は最も古いもののひとつであり、代官所からも近いこと也有つて、歴代代官の尊信を集めてきた神社である。

神社境内の中心にある拝殿は安永七年（一七七八）、日田代官所役人大塚伸右衛門の寄進とされ、格天井の小間絵、三十六歌仙などの絵馬がある。

その周辺には多くの石造物がある。このうち、拝殿への石段に下に立つ鳥居は元和八年（一六二二）、丸山城主石川主殿頭忠総の寄進という。また参道左右に建つ全十基の石灯籠の中には、右の拝殿と同年のも



羽野天満宮